

水稲



水稲営農情報



水稲

吉田 義文
指導販売課
0969-22-1105

収穫までの水管理落水期の延長

米の登熟や品質向上を図るためには根の活力維持が大切です。そのためには、間断灌水による水管理と、適期落水が大きく影響します。落水は収穫に支障のない限り遅らせてください。(収穫前5日～7日程度)

収穫・乾燥調整

収穫適期は籾黄化率が85%になった頃です。収穫が早いと青未熟、収穫が遅れると茶米等の発生要因となります。

刈り取り作業は、コンバイン刈りの場合、つゆがなくなった頃

から始めるのがもっとも効率が良い、傷籾の発生も少なくなりま
す。暑い時期の収穫作業ですので、生籾で長時間放置しますと
ムレ米が発生します。収穫後は、速やかに通風乾燥を行って
ください。高温乾燥は胴割れや碎米の要因となりますので、機種
にあった温度設定で行いましょう。かけ干しの場合は、期間を
3～4日とし、適正玄米水分15%～16%で早めに脱穀してくだ
さい。玄米仕上げ水分は15%を目標としてください。過乾燥や
高水分は品質や食味を落としますので充分注意しましょう。入
念な調整作業を行い、整粒歩合(80%目標)を高めましょう。

果樹



7月の柑橘園管理



果樹

鶴浜 研二
上島営農指導センター
080-1771-4257

1. 病虫害防除

6月にハーベストオイルを散布できなかった園地では、7月上旬までに散布を終えて下さい。希釈倍数は200倍での散布となります。

対象品種	防除時期	対象病虫害	農薬名	希釈倍数	備考
温州	上旬～中旬	黒点病	ジマンダイセン水和剤	600倍	混用散布
		アザミウマ類 ゴマダラカミキリ	※モスピランSL液剤	4,000倍	
中晩柑	中旬	黒点病	エムダイファー水和剤	600倍	混用散布
		アザミウマ類 ゴマダラカミキリ	※モスピランSL液剤	4,000倍	
温州 中晩柑	発生時	カメムシ	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	
MR. ジョーカー水和剤			2,000倍		

※アザミウマ類、ゴマダラカミキリはアドマイヤーフロアブル4,000倍も使用可能です。

2. 施肥・葉面散布

栽培タイプ	肥料名	品種名	施用時期	10a当たり袋数
省力化タイプ	新アグリロング28号	清見・河内晩柑 甘夏・パール柑 デコポン	7月上旬	5袋

○デコポン、早生・普通温州の果皮強化対策(こはん症・浮皮防止など)

・ジュシーカル又はバイカルティ 1,000倍

3. 摘果の実施

○温州みかん…小玉果や病虫害果を中心に摘果を行い、日焼けし
やすい上向き果も摘果しましょう。

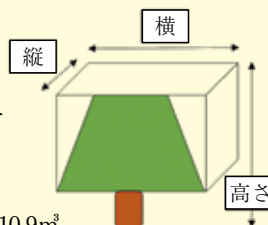
○中晩柑…今月の中旬までに粗摘果を終わるよう作業を進め、最
終着果数の2割増し程度まで落とします。品質の悪い
裾成り・内成りから行き、その後赤道部と樹上部の小
玉果や傷果を中心に摘果しましょう。

○デコポン…結果樹年齢が古い樹や樹勢が弱い樹では早期重点
摘果を行い、樹勢の維持を図りましょう。



目標階級比率

階級	4L	3L	2L	L
比率	5%	30%	40%	25%



○一樹あたりの適正着果量の求め方

① 樹容積=横×縦×高さ×0.7

② 適正着果量=樹容積×13果

例) ① 2.5m×2.5m×2.5m×0.7 = 10.9m³

② 10.9×13果 = 141.7 = 141果

単位：ミリ

品種名	階級目安	7月1日	7月10日	7月20日	8月1日
デコポン	2L	31	37	43	47
清見	2L	31	37	44	49
甘夏	2L	33	38	47	57
河内晩柑	L	40	45	55	59
パール柑	2L	50	57	67	75

4. 温州みかん品質向上対策

○タイバック被覆の実施

品質向上の為に、タイバック被覆を行いましょう。

また、被覆後は定期的に果実分析を行い、品質に応じた水分
管理を行いましょう。

品種名	被覆時期	品種名	被覆時期
極早生	6月下旬～7月上旬	中生	7月中旬
早生・肥のあけほの	7月中旬	普通	8月上旬

○フィガロン散布の実施

マルチ被覆と併せ、フィガロンを散布する事により品質の向上
を図ります。下の表を参考に実施しましょう。

1回目の散布時期は満開日より60日後、2回目は満開日より80
日後となります。但し、収穫前日数は14日です。

使用の際はご注意ください。

※使用薬剤 フィガロン乳剤

品 種	1回目		2回目	
	散布時期	希釈倍数	散布時期	希釈倍数
極早生	7月上旬	2,000倍	7月下旬	2,000～3,000倍
早生・中生	7月中旬	2,000倍	8月上旬	2,000～3,000倍
普通	7月中旬	2,000倍	8月上旬	2,000～3,000倍

野菜



抑制力ポチャ栽培



野菜

小林 優介

下島営農指導センター
080-1729-1635

作型	8月			9月			10月			11月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
	○←→○◎←→◎←			◎←→◎←			◎←→◎←			◎←→◎←		
	播種			定植			誘引・交配・葉散			収穫		

1. 品種…くりゆたか等

2. 圃場準備…幅は3～4mの高畦ベットを作る。水が溜まらないよう、額縁明渠を行うなど排水対策を徹底する。施肥量 (kg)

10a当り	N	P	K
基肥	12～15	20～25	12～15
追肥	3	3	3
合計	15～18	23～28	15～18

3. 播種…8月上旬～中旬に直播又は、セルトレー・ポットに播種する。播種量は10a当り1本仕立て1000粒

4. 定植…株間25～30cmで、植穴処理を行い定植。活着するまでは灌水する。

5. 整枝…一本仕立て主枝が60cm位伸びた頃わき芽を除き、風等で動かないように主枝を等間隔に杭や棒等で真直ぐ固定する。台風が来る場合は、ネットを被せるか、杭等で折れないように固定する。着果位置は、12～15節程度で、株元から100cmの長さに着果させる。

6. 交配…9月上旬～下旬にミツバチ等や雄花を利用した人工交配により必ず着果させる。人工交配の場合、朝9時までには終了する。

7. 追肥…中耕と除草を兼ねて蔓が1mほど伸びた時に待ち肥を行う。着果確認後にソフトボールより少し大きくなった頃、速効性肥料を施用する。

8. 収穫…着果後50～55日前後で収穫。試し切りを行い、十分熟成されていること（果肉がきれいなオレンジ色。黄色は早すぎる）を確認する。

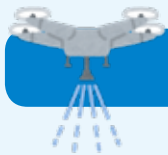
9. 病害虫…アブラムシ、うどんこ病等が発生する為早めの防除を行う。

アブラムシ…本葉4～5枚展開時

【薬剤】モスピラン顆粒水溶剤 2000～4000倍 他

うどんこ病…9月下旬

【薬剤】トリフミン水和剤 3000～5000倍 他



ドローンの実演会を開催

5月25日、新和町大多尾地区の果樹ほ場で、初田工業(株)によるドローンの実演会を開催しました。

約30名の組合員や営農指導員が集まり、実際にドローンが液剤を散布の様子を見学しました。ドローンによる散布は、散布作業の効率化や省力化が期待できます。下島営農指導センターの山下センター長は「農業者の高齢化も進んでおり、今後は農作業の省力化も必要になってくる。共同利用なども含めて導入・活用を検討できれば」と話しました。



農機センターからお知らせ

使わなくなった農業機械を引取希望者へ紹介いたします！

もう使わなくなった農業機械が倉庫に眠っていませんか？

「だれか必要な人がいれば譲りたい」という方の農業機械を広報誌などに掲載し、

引取希望者への紹介をいたします。掲載・紹介にかかる手数料は無料です！各農機センターへお気軽にご相談ください。

大矢野農機センター：080-2735-0029

上島農機センター：0969-53-1139

下島農機センター：0969-78-4980



※農業機械の点検修理・運搬などが必要な場合などもお気軽にご相談ください。（別途手数料が発生いたします。）